

平成27年度 ところ事業総括

平成27年度のところは、「生活の質を向上させるための自立支援の推進」「業務の標準化」「経営の安定」を事業目標に行ってまいりました。

入居ではユニットリーダーが中心となり、望む生活の実現を目指すためのベースとしておむつゼロに取り組みました。1年間の成果としては、ユニットにより差が見られ達成率は59%でした。しかし、「水分・食事・排泄・運動」が基本ケアであるという考えがだいぶ浸透してきたように思われます。

平成26年度と比較すると入居の平均介護度は3.51から3.83に上がっています。これは平成27年度の法改正で介護度4、5の方の入所によって加算がつくことから、重度の方に入所していただいた結果であります。

感染予防として、アルビシャット精製器の導入、噴霧器の設置、全職員、面会者のマスクに加えエアマスク使用の徹底を図りました。また、2月上旬より約1カ月半にわたり面会規制をさせていただきました。その結果、ご家族のご理解もあり入居者様の間での感染症に罹った方は一人もいませんでした。

また、毎月のご利用料の請求書と一緒に居室担当職員より一筆箋を同封することにより、施設での様子がよくわかると喜ばれております。文化祭や春祭りなどといった行事にも多くのご家族に参加していただいております。8月のお盆の面会時にはのべ150人あまりのご家族にお越しいただきました。

職員の勉強会として外部講師を招いて8回、ユニットリーダー会主催で4回開催しましたが、今後利用者様の安全と基本の保証のため、職員の資質向上に努めてまいります。

ショートステイは春から夏にかけて稼働が伸びなかったため、平均すると平成26年度比で▲4.3%となりました。入居の空きベッドを活用する空床利用は各ユニットの職員の協力もあり定着してきております。ショートステイは在宅サービスということもあるため、施設での取り組みが自宅でも継続できるようにご家族に促していきたいと思っております。

デイサービスは「いつまでも元気でいられるデイサービスセンター」を目指し取り組んでまいりました。個別機能訓練は利用者様を担当看護師別に明確にし、モニタリング等をご家族や担当ケアマネージャと確認を行いながら実施してきました。「元気でいられる」「状態の維持ができています」などご本人、ご家族からの声も聞かれます。毎週火曜日にはベイシアへお買い物外出をしており、現在13名の方がご利用されています。普段、買い物に行かれないご利用者様にとってはこの日が待ち遠しく楽しみにされているようです。介護お助け隊として利用以外のサービスをしてきましたが現在は安否



確認の依頼が主となっております。デイサービスのご利用がない日でもお弁当の配達をし、安否確認をすることでご家族から安心との声をいただいております。

デイサービスは目標稼働率を達成する事はできませんでしたが、平成26年度比ではプラス3.3%でした。平成28年度は作成の遅れていたデイの広報誌「ハート」を発行します。東御市だけでなく上田市や小諸市など新規の居宅介護支援事業所の開拓を行ってまいります。ケアマネージャとの信頼関係を築くためにも密な連絡、報告を欠かさないことを心がけていきます。

介護相談室くるみは予防はおおむね目標通りとなったものの、介護給付は目標に達成する事ができず収入が伸びなかったため平成26年度なみの収入となりました。

9月に電力自動削減システムを導入しました。導入後の電気料金を昨年度と比較しますと約2,100千円の削減を図ることができています。また、各ユニットで使用する消耗物品の在庫管理を事務にて徹底しました。毎月棚卸しをおこない、在庫数を限定するなどの対策を行った結果、洗剤などの「保健衛生費」は100千円を削減することができました。最初はなかなか物品の必要数の把握ができず、在庫を切らせてしまうなど戸惑うところもありましたが、決められた数量の中でやりくりをしようという気持ちが各職員の間にも徐々に浸透しつつあります。平成28年度はさらに無駄を省き、都度、業者の選定などを行いながら経費削減に努めてまいります。そのほか、固定資産の取得は勤怠計算ソフト導入費170千円、デスクトップパソコン1台126千円、公用車1台600千円、ほのぼのクライアント使用権145千円×3台でした。

福祉医療機構への元金返済が7月より始まりました。平成27年度の返済総額は19,652千円でしたが、平成28年度は28,836千円となります。更なる収入増と経費の削減に努めてまいります。